

21. 在宅高齢者の生活意欲 広島と東京都の比較

はたのリハビリ整形外科¹，広島大学保健学科²，国立障害者リハビリテーションセンター³，藤野整形外科⁴，川島整形外科病院⁵，岩井内科整形外科病院⁶，竹田総合病院⁷
○畑野栄治¹，室積正人¹，大谷拓哉²，出家正隆²，岩谷 力³，藤野圭司⁴，川島真人⁵，
稲波弘彦⁶，本田雅人⁷

【はじめに】

消えた年金に続き，消えた高齢者の問題が大きくクローズアップされている。団塊世代の高齢者が急速に増加し，無縁社会（血縁，地縁，社縁がなくなっている）になりつつある中で，問題解決への糸口を見出すために以下の研究を行った。

【対象と方法】

全国5つの整形外科医療機関に運動器疾患を主訴として通院やデイケアに参加している65歳以上の312名に対して，同居家族人数と役割感・不安感や社会参加意欲などの関連性を面談調査から検討した。また，東京都心62名と区面積の92%を山地がしめている当院かいわいの99名についても，この二つの町で役割感や社会参加意欲などの視点から比較検討したので報告する。

【結果】

独居者と5人以上の家族で比較検討する。気持が落ち込むことがあるは前者が69名中52名(75%)，後者は55名中30名(55%)，自分は役に立たないと感じることがあるは前者が50%，後者は36%，親しい友人との付き合いを控えているが前者では42%，後者では35%，地域での行事参加などを控えているが前者では68%，後者では56%，先行き不安であるが前者では83%，後者では69%であった。自分は役に立たない人間であると感じる者は同居人に配偶者がいれば157人中

わずか7名(4%)であったが，同居者の中に子供がいると142名中48名(34%)であった。子供と同居している高齢者は配偶者だけで生活している者に比べて，「自分は役に立たない人間であると感じる」の割合が高かった。子供が親に「あげ膳・据え膳」を強いているからであろうか？地域での行事の参加を控える者は同居人に配偶者がいれば55%であるが，子供が同居していると65%であった。当院がある町と東京都での比較では，自分は役に立たない人間であると感じるのが前者では33%，後者では47%，親しい友人との付き合いを控えているが前者では37%，後者では48%，地域での行事参加を控えているが前者では51%，後者では71%，そして先行き不安があるは前者では68%，後者では82%であった。当院かいわいは，地域にまだ住人同士が「大きなおせっかいに至らなくても，小さなお世話」をする地縁が残っていることなどが，両者間の差になっていると考えられる。

なお，本研究は厚生労働科学研究からの委託費によって行った。